

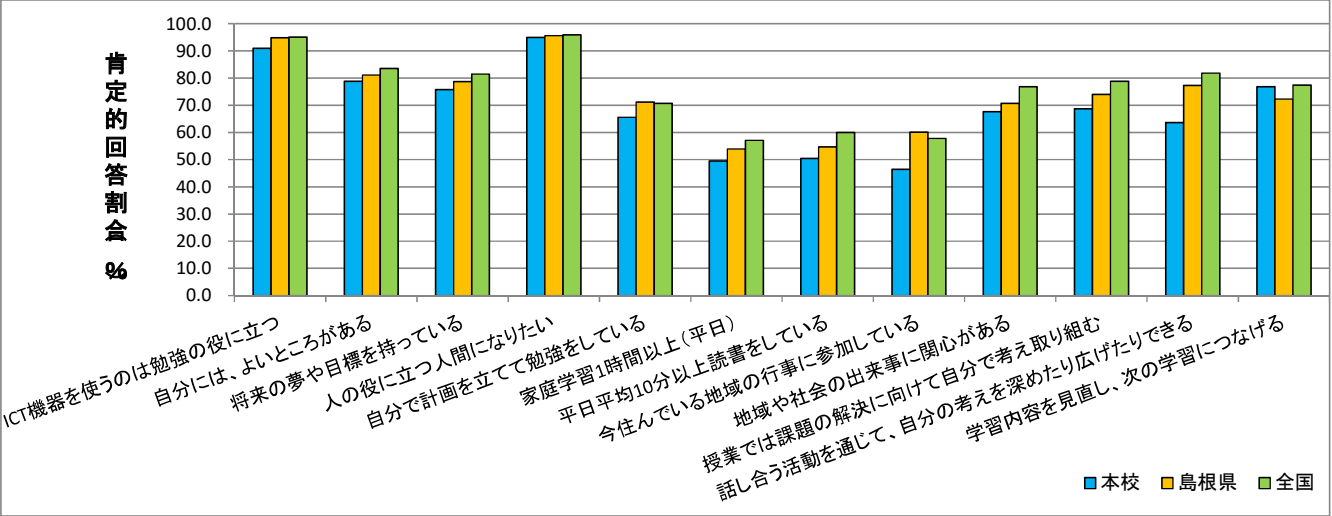
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○平均正答率は全国より「-0.2」県より「+2.0」である。正答率8割以上の児童は全国より「+0.2」県より「+4.5」である。問題別正答率では「漢字を文の中で正しく使うことができる」では全国より「+5.0~6.0」上回っている。 ●問題別正答率では、情報の扱い方に関する「文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける」で「-5.0」、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」が「-5.0」で全国を下回り、課題が見られる。	・想像した人物像や全体像を意識しながら読み進め、様々な表現が読み手に与える効果について考え、実際に活用できるように、読み取った情報を表現する機会を増やす。 ・授業中、「聞く・話す」等の対話的な活動を取り入れ、全体で共有を図る学習過程で情報を共有し、互いに相手に伝え合いながら、情報を活用して学習を深めていく。
算数	○平均正答率は全国より「+0.5」県より「+4.0」である。正答率8割以上の児童は全国より「-0.4」県より「+7.0」である。学習指導要領の領域では「数と計算」では全国より「+2.1」、「変化と関係」では全国より「+1.9」で上回っている。 ●問題別正答率では、「正三角形の意味や性質についての理解」が全国より「-9.8」、「二次元の表から条件に合う数を読み取る」が「-9.8」、「(2位数)÷(1位数)の筆算について、各段階の商の意味を考える」が「-8.9」で全国を下回り、課題が見られる。	・理由や数の処理の仕方を順序立てて説明する機会を積極的に設けていく。そのために、「聞く・話す」等の対話を大切にした学習を継続し、自分の考えをもち、説明・表現する機会を増やし、友達の考えと共通点・相違点を明確にさせる取組を進める。 ・タブレットや電子黒板等ICT機器を個人思考や意見交流に活用し、児童が自ら数学的概念を獲得できる指導を進める。

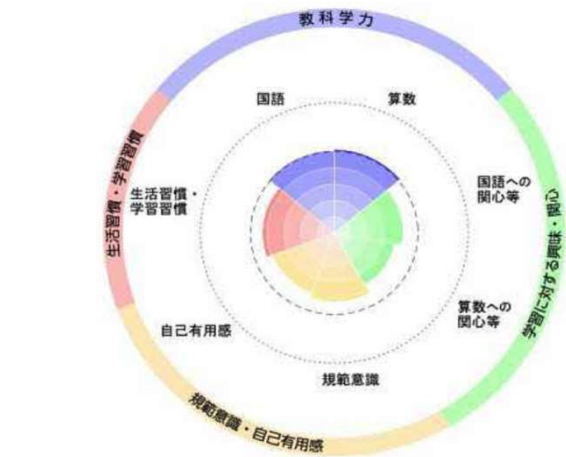
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○肯定的回答割合が高いのは、全国より「+8.5」の「英語の学習は好きですか」である。 ●自己肯定感につながる肯定的な回答が低い。ほとんどの項目で肯定的な回答が全国や県を下回る。 ●英語以外の教科に対して、興味関心に関するものや、学習に関する意識についての肯定的な回答が低い。主体的に取り組もうとする意識が弱い傾向がある。	・それぞれの教科のおもしろさや興味関心をもたせる取り組みを継続するとともに、基礎的な内容がしっかり定着できるように低学年から確実に積み上げていきたい。 ・対話や協働活動の楽しさ、自分でやり遂げた達成感を味わわせるために子ども達の自律性を支援するような教師の指導行動を常に意識する。 ・地域と連携した学習を継続し系統的に身に付けたい資質・能力を整理し、自分にできること考えたり、行動したりする機会をつくる

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・教科の学力は全国平均ぐらいである。だが、学習に対する興味関心や自己有用感は低い。ここが課題である。意欲をもって自主的に学習や生活を送っていくために、自己有用感の向上を図るような取組を意識して行っていく必要がある。ペアやグループ、ICTの活用も含めた対話的な学習を積極的に取り入れる。さらに、児童にとって必要感や魅力のある課題を準備し、学習のゴールを明確にして、意欲的に学習に取り組めるように工夫する。また、キャリア教育をベースに、学習と社会的な事象との関連や学習する意味を、自分の将来の夢と重ねて考える。また、図書館活用教育を進め、学習を深化・発展させるような取組も進めていく。

【受検者数】

93 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。